



平成24年度幼稚部保護者講座について



本校幼稚部教育相談児や在籍児の保護者に対する支援として、次のことを念頭に置きながら、講座を開講しました。「聴覚障害に関する知識や、聴覚障害を理解した上でのコミュニケーション方法について学ぶ場を設ける。」、「将来的な進路決定に向けて、様々な情報提供を行う。」、「手話技術の向上を図るため、子どもの生活場面や幼稚部行事で用いる手話を中心にした手話学習を行う。」等です。

今年度は、皆様の協力を得て20講座を開講することができました。講座の内容は、「手話学習」、「絵日記について」、「模倣の大切さ」、「難聴シミュレーション」、「キャリア教育について」、「豊かな経験が言葉を育む」、「先輩ママの子育て奮闘記」、「難聴特別支援学級見学」、「就学について」、「5歳の坂・9歳の壁について」、「小学部授業参観」「自立活動について」、「1年を振り返って」等です。

講座を担当して下さった保護者の方や先生方に心から感謝いたします。来年度も保護者の皆様と共に学びながら、それぞれのお子さんへの支援について考えていく機会を設けて参ります。保護者講座で取り上げてもらいたい内容や希望等がございましたら自立・連携課までお申し出ください。よろしくお願いいたします。

中学部では、スピーチコンテストをやっています。



中学部では、週1時間の集団自立活動の時間を使って、3学期に意見発表の機会を設けています。国語の授業とも連携した「書く」活動は、国語の「意見文を書こう」「パブリックスピーチをしよう」などの単元を活用して、発表の原稿作りをします。原稿ができると、「表現」活動は、自立活動の時間に行います。内容を覚えたり、手話表現を考えたり、発音練習をしたりと自分たちの伝えたいことをいろいろな手段や方法を使って表現するための練習をします。コンテストでは、7つの観点から評価を行うので、それらの観点についても意識して、練習を行います。

今年度の発表は、4人と少なかったのですが、緊張感のあるコンテストだったと思います。

また、校長先生をはじめ、他学部の先生方や中学部の先生、生徒たちからの評価を受け取り、評価の良かったところは喜び、直したら良いところは、真剣に受け止め振り返っていました。

この活動への取組を通して、自己表現の難しさを感じたり、相手に何かを伝えることの喜びを体感したりしながら、生徒たちのコミュニケーションの基本的な力を育てていきたいと考えています。



「希望の進路」



表彰式



知ってましたか？



3月3日は、耳の日・・・

耳の日（みみのひ）とは、1955年日本聴覚医学会が創立し1956年に社団法人日本耳鼻咽喉科学会が制定した記念日です。

3の字が耳の形に似ていること、「み(3)み(3)」の語呂合わせから、一般の人々が耳に関心を持ち、耳の病気のことだけでなく、健康な耳を持っていることへの感謝、耳を大切にするために良い音楽を聴かせて耳を楽しませてあげるために、あるいは、耳の不自由な人々に対する社会的な関心を盛り上げるために制定されました。

- また、3月3日は三重苦であったヘレン・ケラーにアン・サリヴァンが指導を始めた日であり、電話の発明者グラハム・ベルの誕生日でもあります。

聴覚管理に関する御連絡



1 補聴器等の故障について

補聴器等の不調については、修理件数に著しい増加はないものの、同じ児童生徒が繰り返し修理に出す場合が見られました。学校では自立活動の時間等で、補聴器管理については何回か指導を行っておりますが、家庭におかれましても、乾燥ケースの状態や、外したときの管理の仕方など、今一度御確認くださいませようをお願いいたします。

2 人工内耳装用児について

人工内耳を装用している幼児児童生徒については、マッピングの担当機関との連携を行っています。ファイルのやり取りを行っている場合は、早めに確認させていただければありがたいです。

3 ハウリングの対策について

ハウリングが起こるようになると、イヤモールドの再作をする必要があります。学校に依頼いただく場合は、だいたい隔週の割合で、業者さんに来校いただいておりますので、その時に耳型の採型をお願いすることができます。

4 福祉の申請、自己負担金の支払いについて

時々、役所の担当者及び、業者さんから連絡をいただくことがあります。故障や交付の申請、及び自己負担金の支払いは、保護者の方の責任で早め早めをお願いいたします。

5 聴覚管理のプリントについて

現在の状況について、確認を兼ねて、個人別にプリントにまとめお渡ししています。同じものを聴能言語室にも保管し、補聴器や聞こえのトラブルに細かな対応ができるようにしたいと考えています。内容について間違い等がありましたら、御連絡ください。



本の紹介

「耳の聞こえいお医者さん、今日も大忙し」



障害があるからこそ、患者さんの心を、言葉にならない思いを感じとれる。重度の難聴でありながら医師になった著者がユーモアたっぷりに半生を綴る心温まる自伝です。

出版社: 草思社